

もの言う牧師のエッセー… 第7話

「 往く人々、来る人々」

クリスマスシーズンたけなわの2011年12月17日に、北朝鮮最高指導者の金正日総書記が、急性心筋梗塞により死亡したとのニュースが世界を駆け巡った。今にして思えば、英ウィリアム王子とケイト・ミドルトン嬢の挙式が同年4月29日であったが、その祝賀ムード冷めやらぬ3日後の5月2日には、米海軍特殊部隊によってイスラム過激組織アルカイダ司令官オサマ・ビンラディンが殺害され、さらに10月20日には反対勢力によりリビア最高指導者カダフィが拘束・殺害された（死因いまだ不明）のだが、これまたイケメンで有名なブータン国王の挙式（10月13日）の7日後であった。

ここ7ヶ月の間に3人の"独裁者"が姿を消す一方で、有名な王子様たちの結婚式がメディアを騒がすという、誠に Good news と Bad News が不思議なまでに重なった1年であった。

実は聖書には独裁者や王様が大勢出てくる。大抵の場合彼らは、自分を全能者と考え、世の支配者として君臨する。だが本当に全てを支配しているのは神なのだ。世界7代不思議の“空中庭園”で有名なバビロン帝国（BC600年）のネブカドネザル2世大王もごう慢だった。しかし彼は、突然神の怒りにふれて発狂してしまい、7年ものあいだ野良犬のように野を彷徨ったのだ。しかしついに神の前に自分のごう慢さを悔い改めた時、彼に再び理性が戻ってきた。以下はその時、彼が神を賛美して歌った詩である。

「神の支配は永遠に続きその国は代々に及ぶ。すべて地に住む者は無に等しい。天の軍勢をも地に住む者をも御旨のままにされる。その手を押さえて何をするのかと云うる者は誰もいない。その御業は誠、その道は正しく、驕る者を倒される。」ダニエル書4章34-37。

この後、彼は王位にも復帰出来た。世の王様とは違って"天の王・キリスト"は、往くことなく永遠に私たちを不思議な力で導いてくださる。

2011-12-22





